

(様式1)

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの意義を職員全員で確認し、地域生活の継続支援と事業所と地域の関係性強化を謳った理念をつくりあげている。「地域のなかでその人らしく生活することを支えるケア」の具体的なイメージを持って理念をつくりあげている。	○	これまでの理念を見直し、住み慣れた地域での安心した暮らし、関係性の継続、地域生活を支えるための柔軟な支援を事業所の理念の柱におけるような取り組みを実施していく。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ミーティングや申し送り、関わりの振り返りの時にも、理念に必ず触れ、確認し合うようにしている。また、ミーティングでは、理念を掘り下げて職員全体で話し合い、具体的なケアについて意見の統一を図っている。	○	日々のサービスの提供場面（言葉かけ、態度、記録等）において、理念が反映されるよう努めていく。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ご家族には訪問時等、折に触れ繰り返し伝えていく。また、地域住民との触れ合いがある時や施設見学の場面では、わかりやすく説明している。	○	アドバルーン的な広報・啓発ではなく、常日頃から多様な機会を捉えて取り組んでいきたい。
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	普段の暮らしの中で、近隣の人たちへの声かけや行き来のきっかけづくりを行っている。また、隣近所の人たちが立ち寄ったり、遊びに来たり、おすそ分けをしたりする間柄が作られている。	○	日常的に散歩や買い物などに出かけ、近隣の人たちと挨拶を交わしたり、話をしたり出来るよう継続性をもたせていく。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域住民の一員として、自治会に加入している。また、地域との交流を事業所にとって必要な時だけ行うのではなく、ともに暮らす地域住民の一員として、地域で必要とされる活動や役割を担っていく努力をしている。	○	事業所と地域の人々が支え合うような双方向関係を構築していく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p> <p>管理者は事業所での実践内容を踏まえて、地域の様々な研修、会合に関わりながら認知症ケアの啓発に努めている。</p>	○	<p>地域の研修や啓発の場に職員等が出かけて行き、事業所で培ってきた成果を地域の高齢者のケアサービスの推進に還元していく取り組みを行っていききたい。</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p> <p>サービス評価の意義や目的を全職員に伝え、全員で自己評価に取り組むようにしている。また、外部評価の結果を踏まえ、改善計画を作成し取り組んでいる。</p>	○	<p>自己評価を全職員で行い、サービスの質の向上に努めるためにも、外部評価の結果は、ミーティングで報告し、改善に向けて具体案の検討や実践につなげるための努力をしていく。</p>
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p> <p>運営推進会議で取り上げられた検討事項や懸案事項について、その経過を報告し合い、一つひとつ積み上げていくようにしている。また、これまでの評価結果を踏まえ、現在取り組んでいる内容についても報告し、意見をもらうようにしている。</p>	○	<p>「運営推進会議への積極的な参加への呼びかけ」、「運営推進会議メンバーの意見の反映」、「サービス評価と運営推進会議を結びつける取り組み」等を継続して実施していく。</p>
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p> <p>市町村担当者に事業所の考え方、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、共に取り組んでいる。</p>	○	<p>市町村担当窓口に対して、事業所の実情やケアサービスの取り組みを折りに触れ継続して伝えていく。</p>
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p> <p>機会あるごとに職員への説明を行っている。対応が必要と思われる利用者がある場合は、随時、職員に説明、アドバイスをを行いながら利用者の支援に結び付けている。</p>	○	<p>管理者と職員は地域福祉権利擁護事業、成年後見制度の理解に努め、必要と考えられる利用者がそれらを活用するための話し合いや関係機関への橋渡し等を継続性をもって行っていく。</p>
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p> <p>勉強会やミーティング等を実施し、高齢者虐待防止法に関する理解浸透や遵守に向けた取り組みを行っている。</p>	○	<p>虐待行為を発見した場合の対応方法について、事業所で周知徹底がなされるよう継続して努めていく。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を十分説明している。 (食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	入居以前に文書と口頭により詳細に説明し、理解を得ているので、それらは今後も継続して行っていく。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談、苦情の受付窓口を設置している。受付窓口、責任者、電話番号等を明示し、家族に伝えている。また、相談、苦情を気軽に言うていただけるよう日頃から話をしている。	○	苦情に対し、入居者、家族の立場に立って、納得のいく対応を心がけていく。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族が来訪された時は、心身の状態や日頃の暮らしぶり等を詳しく伝え、希望や意見を出していただけるよう心がけている。	○	プライバシーに配慮しながら、本人のご様子やグループホーム全体の様子等を外出時の写真等を利用して詳しく説明していく。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族には訪問時等、常に問いかけ、何でも話してもらえるような雰囲気づくりに留意している。また、出された意見、要望等はミーティングで話し合い、反映されている。	○	苦情への対応で終わるのではなく、その苦情の発生要因を探り、課題を検討し、質の向上を目指す取り組みを行っていく。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員が自由に意見を言える雰囲気が出来ている。また、情報交換やケース会議、サービス担当者会議を行って、現場職員の考えや意見を聞くスタンスが出来ている。	○	日常的に現場で現場職員と接し、実際に状況をつかんでいる。また、報告、連絡、相談は昼夜を問わず行えるようになってきているので、今後も継続して行っていく。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者の自由な暮らしを出来る限り支えられるよう、起床時や就寝時、夜間、入浴等、利用者の状態やペースに合わせたローテーションを組んでいる。	○	変化する利用者、家族の状況や個別の要望にそって必要な支援を柔軟に提供していくことが地域密着型サービスの特徴であるため、その点は今後も踏まえた勤務シフトを考えていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者、ご家族への信頼関係を築くためにも、馴染みの職員が対応することが重要と考えており、異動や離職がやむを得ない場合も、その時期や引継ぎの面で最善の努力をしている。	○	職員の異動、離職を最小限に抑えるための対応や職員交代による利用者のダメージを防ぐ取り組みを行っていく。
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人から中堅職員等まで、職員の経験や力量に応じて、必要な研修が受けられるよう組織的な体制を作っている。また、研修等に参加した職員が主に中心となり、研修に参加しなかった職員にも伝達研修を行い周知している。	○	日常的に学ぶことを推進し、全ての職員がチームとして、研修・会議等参加の機会を設けていく。また、全職員が共有できるよう、研修内容を報告する機会を作っていく。
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス事業者連絡協議会があり、その中で交換研修や情報交換、スタッフ研修を設けて質の向上に励んでいる。	○	ネットワークに形式的に参加するのではなく、事業者同士協働しながら質の向上に取り組んでいく。
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	管理者等は、職員の話をよく聞き、各自のストレスや背景を理解するべく努力している。また、職員相互が気兼ねなく話し合う場面や機会を作っている。	○	職員の疲労やストレスの要因について気を配り、勤務時間中にも気分転換ができるよう職員同士の人間関係を把握したりするよう努めていく。
22 ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員各人が向上心を持てる職場環境を整えることが勤務の継続につながり、結果的に利用者の生活の継続性を支えることになる。職員の日頃の努力や具体的な実績、勤務状況等を把握し、それらをもとに向上心を持って働けるような配慮や対応をしている。	○	職員の資格取得に向けた支援を行い、取得後は本人の意向を重視しながら職場内で活かせる労働環境づくりに努めていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前面談で生活状態を把握するよう努めている。また、サービス利用について相談があった時は、必ず本人に会って心身の状態や本人の思いに向き合い、職員が本人に受入られるような関係づくりに努めている。	○	まず、本人の思いや不安を受け止め、安心してもらうことから始めている。また、本人が今何を求め、今何が大切か、その人をよく見て、その人を知ろうとしている。などの配慮に努めている。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご家族が求めているものを理解し、事業所としてはどのような対応ができるか、事前に話し合いを実施している。また、これまでの家族の苦労や今までのサービスの利用状況など、これまでの経緯について、ゆっくりと聞くようにしている。話を聞くことで、落ち着いてもらい、次の段階の相談につなげている。	○	相談をする家族の立場に立って、この機会に家族等の話をしっかりと聞き、受け止めながら関係を築くことに努めていく。
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人やご家族の思い、状況等を確認し、改善に向けた支援の提案、相談を繰り返す中で信頼関係を築きながら必要なサービスにつなげるようにしている。	○	相談時の本人、家族の実情や要望をもとに、その時点で何が必要かを見極め、事業所として出来る限りの対応に努めていく。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族に事業所を見学してもらうことから始め、スタッフが自宅に出向いたり、遊びにきてもらったりすることを繰り返しながら事業所での生活が安定するのを見極めて安定的な利用に移行している。	○	本人の納得が得られないまま心理的不安を抱えながら、利用に至らないよう注意を払っている。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	困ったときや大変なときにいたわりの言葉を入居者が職員にかけてくださり癒されている。	○	本人の思いや根本にある苦しみ、不安、喜びなどを知ることに努め、暮らしの中で分かち合い、共に支えあえる関係づくりに留意していく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族が来訪された時は、心身の状態や日頃の暮らしぶり等を詳しく伝え、希望や意見を出していただけるよう心がけている。	○	職員は家族の思いに寄り添いながら、日々の暮らしの出来事や気付きの情報共有に努め、本人と一緒に支えるために家族と同じような思いで支援していることを伝えていく。
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族の本人への思い、本人の家族への思いを受け止めて、両者の思いが結びつくような働きかけを心がけている。	○	職員は、あくまでも本人と家族の支援者であり、これまでの両者の関係を踏まえつつ、今後より良い関係を築いていけるための支援に努めていく。
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者に馴染み深く、かつて楽しみや張り合いにしていた行事を年間にわたって行うようにしている。また、季節感を感じていただけるような年間行事の実施	○	本人がこれまで培ってきた人間関係や社会との関係を把握し、その関係を断ち切らないような支援も地域密着型サービスの役割のひとつと考え、努めていく。
31 ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	個別に話を聞いたり、相談に乗ったり、みんなで楽しく過ごす時間や気の合う者同士で過ごせる場面づくりをするなど、利用者同士の関係がうまくいくように、職員が調整役となって支援している。	○	利用者同士が共に助け合い、支えあって暮らしていくことの大切さを職員は理解することが重要である。
32 ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	地域密着型サービスとして、サービス利用期間のみの関わりではなく、終了後も利用中に培った関係性を基盤にしなが、長期・継続的なフォローをする。	○	サービスの利用が終了された方や他の事業所へ移られた方にも、利用者と一緒に遊びに行ったり、事業所の行事に招待したり、遊びに来てもらう等の継続的な付き合いができるよう心がけていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で声かけ、把握に努めている。言葉や表情などから、その真意を推測したり、それとなく確認するようにしている。意思疎通が困難な方には、ご家族や関係者から情報を得るようにしている。	○	地域密着型サービスの特徴である少人数の馴染みの関係を活かして、一人ひとりの思い・暮らし方の希望、意向の把握に努めていく。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシーに配慮する。また、一人ひとりの生活歴に関する情報を、本人と家族、その人の昔をよく知る人から教えてもらっている。どの時代の記憶が一番鮮明であるか、入居者にとっての大切な経験、大きな出来事、思い出を把握し、ケアに活かすようにしている。	○	一人ひとりの入居者について、その人独自の生活歴や個性、希望、現在の心身の状態を把握している。また、個々の状態に応じて排泄等のチェックシートを用い、的確に状態を把握するよう努めている。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者一人ひとりの生活リズムを理解するとともに、行動や小さな動作から感じ取り、本人の全体像を把握している。	○	入居者のペースにそって見守りながら一緒に生活を送るよう努めていく。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員による関わり方や方針のズレは、認知症の人にとって混乱を招く原因になりやすい。入居者一人ひとりに対する職員全員の関わり方の方針と具体的な内容を導く個別介護計画を実施している。	○	日々の申し送りで情報交換や意思疎通がよくてもズレやマンネリは避けられないので、チームケアのためにも会議を定期的に設ける必要がある。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	設定した期間に応じた見直しを実施するのはもとより、状態の変化に応じて見直しを行っていることが記録として具体的に記されている。また、計画は、状態変化に応じた随時の見直しを行い、実施後は必ず評価するようにしている。	○	家族が訪問する機会には、必ず自然な会話の中で介護計画について説明し、意見を聞くチャンスを作っている。また、最終的に出来た介護計画を家族に見てもらい、確認している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルが用意されており、日常の暮らしの様子や本人の言葉、排泄状況、食事や水分量のチェック等、身体的状況もきちんと記録されている。また、グループホーム全体の日誌とは別に、入居者個々について毎日具体的な記録を行っている。	○	日々の記録は、やったことを記すだけのものではなく、本人を身近で支える職員しか知りえない事実やケアの気づきを生き生きと具体的に記すことが大切である。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	認知症対応の居住環境や職員の機能を活かして、自宅での生活が限界になった時に、馴染みの職員がいる馴染みの環境への緩やかな住み替え支援を行う。	○	利用者や家族の状況や意向は固定したものではなく、常に変化しているものであり、その時々々の本人と家族の状況や要望に向き合い、暮らしを守るために、その時々々に必要な支援を事業所の多機能性を活かして、柔軟に行っていく。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	利用者が安心して地域での暮らしを続けられるよう、警察や民生委員等と意見交換する機会を設けている。	○	地域生活を継続していくために、本人と関係のあるボランティア個人または団体や民生委員等の存在を把握し、協働していく。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要に応じて、適切に事業所以外のサービスとつなげるよう外部のケアマネジャーと連携を図っている。	○	本人の生活をより総合的に支援するために、介護保険以外のサービスとの連携の必要である。利用者の選択肢を増やし希望を叶えるために、事業所だけで抱え込まず、本人をよく知る地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合いの機会を増やしていく。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議等にも参加していただき、これから利用を考えている人たちに、グループホームの情報や具体的な様子を発信してもらおう窓口としても連携を図っている。	○	成年後見制度が必要と思われる利用者に、地域包括支援センターと協力して利用できるようにしている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者一人ひとりにあわせた受診が確保されている。また、受診時の通院介助の方法についても話しあられ、家族等と合意が出来ている。	○	市の定期健康診断を利用して受診していただけるよう、入居者家族への呼びかけをしている。また、入居時に健康診断を受けたかかりつけ医療機関を利用し、最低でも年1回の定期健康診断を受けていただけるよう、入居者家族への呼びかけをしている。
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症に関する診断や治療、対処方法、医療の対応が入居者個々に出来ている。	○	入居者が必要な診察を安心して受けている。また、安心して受診出来る医療機関を確保している。且つ、協力病院に情報提供をし、臨機応変に対応してもらっている。
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員を配置しており、常に利用者の健康管理や状態の変化に応じた支援を行えるようにしている。また、看護職員がいない時間は、介護職員の記録をもとに確実な連携をおこなっている。	○	利用者の普段の状態や個別の状況をよく知っている看護職員を確保し、気軽に相談しながら一人ひとりの健康管理や医療的な支援をおこなっている。
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院したケースの場合、早期退院への支援を行っている。また、家族と共にホームが医療機関と積極的に早期からの退院計画作りに参加している。	○	入院は、なれない場所、治療処置等で心身に大きなダメージをもたらす。入院に際しては、本人のストレスや負担を軽減するために、家族等と相談しながら医療機関に対して本人に関する情報の提供や、ケアについての話し合いをおこなっている。
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化に伴う意思確認を行い、事業所が対応し得る最大のケアについて説明を行っている。	○	重度化した場合や終末期のあり方、事業所の対応について、できるだけ早期から本人、家族等、かかりつけ医等ケア関係者と話し合いを繰り返し、その時々本人、家族の意向を確認しながら、対応方針の共有を図っている。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	本人や家族の意向を踏まえ、医師、職員が連携をとり、安心して納得した最期を迎えられるように、随時意思を確認しながら取り組んでいる。	○	重度や終末期の利用者を支えるために、チームの連携、職員の力量、諸条件等を備え、他の利用者への影響も踏まえて対応をしている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	環境の変化には特に気をつけている。病院から直接グループホームへ入居等の際は、退院時サマリー等を活用、情報交換を行っている。また、ダメージをより少なくするために、家族に協力していただいたりしながら支援している。	○	利用者の環境や暮らし方の変化によるダメージ（リロケーションダメージ）が、最小となるように、本人に関わる関係者の協力を得て取り組んでいる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	「2015年の高齢者介護」の趣旨に即し、最大のキーワードである「尊厳」を意識し、本人の年長者としてのプライドを傷つけることのないよう心がけている。	○	勉強会やミーティングの折に、職員の意識向上を図るとともに、日々の関わり方を常に点検し、利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応の徹底を図っている。
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	職員は入居者と過ごす時間をとおして入居者の希望、関心、嗜好を見極め、それをもとに日常の中で本人が選びやすい場面作りをしている。また、入居者が言葉では十分に意思表示できない場面であっても、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の希望や好みを把握して支援している。	○	日常生活の中で一人ひとりの力に合わせて、利用者自身が決定する場面を具体的に作っている。
52 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れは持っているが、時間を区切った過ごし方はしていない。一人ひとりの体調に配慮しながら、その日、その時の本人の気持ちを尊重して、出来るだけ個別性のある支援を行っている。	○	一人ひとりの生活リズムやその日に本人がしたいと思っていることを大切にし、日々の暮らしがその人らしいものとなるような支援を行っている。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	認知症のレベルや年齢にとらわれず、その人らしいおしゃれに気を配っている。また、職員のおしゃれはお年寄りの気持ちを引き立たせる働きをもっているため、その点についても配慮をしている。	○	本人の体調や習慣、好みを配慮しつつ、季節や1日の気温差等に適切に対応している。また、施設内だけではなく、外出時に於いてもはおる物、靴、帽子等にも配慮している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	○	<p>入居者の希望を尊重しながらも、グループバランスを保てるように入居者間の相性を考えて座る位置を決めている。また、食事中は、会話を楽しみながらゆったりと和やかな雰囲気ですべての食事が出来るように配慮している。</p>
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	○	<p>利用者が自宅にいる時と同様に、嗜好品を楽しめるよう支援することが求められる。一人ひとりの好みや意向を大切にするとともに、それを好まない周囲の利用者への配慮や本人との調整の必要である。</p>
56	<p>○気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	○	<p>入居者個々の状態に合わせてパットの昼用夜用を使い分けたり、日中は失禁パンツで対応する等している。また、下着、リハビリパンツ、尿取りパット、紙おむつを、日中、夜間、外出等に応じて使い分けしている。</p>
57	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	○	<p>認知症の人は、衣服を脱がされたり裸になることへの不安や羞恥心、恐怖心、水に対する抵抗感を想像以上に多く抱いていることもあるため、そのことを職員全員が理解し、認知症の人を驚かさないう入浴介助を心がけている。</p>
58	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	○	<p>日中の疲れ具合（人との交流、家事、外出、入浴、その日の出来事等）に合わせて、個別に休息をとっている。また、日中でもちょっと一休み出来るようソファを置いてある。</p>
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	○	<p>入居者に馴染み深く、かつて楽しみや張り合いにしていた行事を年間にわたって行うようにしている。また、季節感を感じていただけるような年間行事の実施</p>


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員はお金を持つことの大切さを理解し、入居者一人ひとりの力量に応じて支援している。また、お金の額がわかるか、所持金の管理が出来るか等を把握している。	○	利用者が日常の暮らしの中で、その人の希望や力に応じてお金を所持したり、使えるような支援に心がけている。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	個々に合わせた楽しみや張りあいになることをみつけて、外出の機会を設けている。また、季節に応じた外出計画等	○	一人ひとりの習慣、好み、持てる力が大切であり、買い物に行く機会が日常的に出来るように心がける。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	入居者と相談しながら、花見、紅葉狩り、外食等の計画を練り、実際に出かけている。	○	本人が行きたいと思う遠くの場所への外出については、予め計画を立てて、職員の勤務を調整する等しながら徐々にすすめている。場合によっては、家族の協力を依頼することもある。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者一人ひとりの手紙や電話の習慣、希望、持てる力を把握している。また、職員は入居者が電話を使う時、状況に応じて席を外すようにしている。	○	家族や友人などに電話しやすい雰囲気づくりや、職員からの声かけを行うとともに、会話が他の利用者には聞こえないよう電話の設置場所等を工夫している。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族が訪問された時は、職員は笑顔で迎え、居心地よく過ごしてもらえよう配慮している。また、ホームは家族がいつでも訪ねられるよう、出入りは自由になっている。	○	ご家族も親の家を訪れるような気軽で来やすい雰囲気作りを心がけている。訪問時間等は定めておらず、仕事帰りやご家族の都合のいい時間帯に、いつでも訪ねて来ていただけるような配慮をしている。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	介護保険指定基準に於いての禁止対象となる行為は一切行っていない。また、転倒等の入居者が抱えるリスクに対して、身体拘束をしない介護上の工夫を施している。	○	高齢者の権利擁護や身体拘束に関する勉強会やミーティングを事業所の中で実施し、職員の共有認識を図っている。また、日々の申し送り時等で、その日のケアを振り返り、自覚しない身体拘束が行われていないか等を点検している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	入居者の方が外に出て行きそうな雰囲気を察知したら、止めるのではなくさりげなく声をかけたり、一緒について行く等、安全に配慮し、自由な暮らしを支えるようにしている。	○	職員の見守りの方法を徹底し、また、一人ひとりその日の気分や状態をきめ細かくキャッチすることで、日中は玄関の鍵をかけずに自由な暮らしを支援している。
67 ○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼夜共に職員が入居者を見守りやすい位置にいることを職員間で徹底している。また、記録等をつける際も事務所にこもらず、入居者の動きを把握できるようにすべてホールでつけている。	○	職員は利用者と同じ空間で記録等の事務作業を行いながら、さりげなく全員の状況を把握するように努めている。夜間は、数時間ごとに利用者の様子を確認するとともに、起きられた時にすぐに対応ができるよう居場所を工夫している。
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	入居者個々の状態に応じた管理、保守、保管を行っている。また、入居者の状態に合わなくなった場合は、随時再検討を行っている。注意の必要な物品や薬剤等は職員室や倉庫にて管理している。	○	利用者の状態を把握しながら、危険を防ぐ取り組みを実践している。
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	緊急時対応マニュアルを作成している。また、緊急時連絡網を作成している。	○	一人ひとりの状態から予測される危険を検討し、事故を未然に防ぐための工夫に取り組んでいる。例えば、誤嚥のリスクの高い利用者の食事支援や服薬の方法等がある。また、日々のヒヤリハットを記録し、職員の共有認識を図っている。
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	事故報告者を作成し、職員全員で緊急ミーティングを行い、その事案の検証を行っている。また、再発防止策を講じている。	○	全職員が講習会に出席したり、定期的に研修を実施する等、全職員が応急手当を行えるよう学習していく。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し、年2回利用者とともに非難訓練を行っている。また、定期的に消火器や火災報知機等の設備点検を行い、同時に避難経路の確認を行っている。	○	災害を想定した実践的な訓練、地域の協力体制、災害に備えた備品等の準備等に努めていく。

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	様々な役割活動や自由な外出により、リスクが高くなるものの、力の発揮や抑制感のない暮らしが利用者の表情を明るくし、むしろ行動の障害を少なくしていることをご家族に見てもらったり、具体的に説明をしている。	○	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて、把握しており、家族に対して対応策を説明している。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	全職員が、入居者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見することの大切さを理解している。また、業務的にバイタルチェックを行うのではなく、入居者とのコミュニケーションのひとつとして、また早期発見の手段として実施している。	○	異変時はささいなことでも、家族に連絡して、どう対応するかを相談の上で決定している。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は入居者個々の薬の目的を周知しており、正しく服薬出来るよう支援している。薬が変わったときは特に副作用等の把握を慎重に行っている。また、入居者各人の処方箋が添付された服薬管理票を作成し、全職員が薬の内容を把握出来るようにしている。薬の服用によって入居者の変化がある場合には、家族等に連絡している。	○	全職員が薬の内容（目的、用法、容量、副作用）を把握出来るよう、わかりやすい薬剤のシートを用いたり、勉強の機会を作っている。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘予防に向けて、食事はもちろんおやつも含めて食材やメニューを工夫している。また、下剤や浣腸等を使用している場合は、個々の状態に合わせた使用量、頻度となっている。薬にむやみに頼らない工夫をしている。	○	便秘がちな高齢者にたいして下剤や浣腸等を習慣化させることは、身体機能を衰えさせたり、排泄習慣を崩すことにつながることを念頭に入れ支援している。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔ケアは入居者本人に任せることが多いが、困難な入居者に対しては、職員が支援するようにしている。また、一人ひとりの習慣やできること、できなくなったことを把握し、個別に働きかけを行っている。	○	口腔ケアの重要性を理解し、本人の習慣や有する力を活かしながら食後のうがいや口の中の手入れの支援を行っている。
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の体調や状態によって、栄養摂取量の極端な偏りがないように注意している。また、栄養のバランスを考えた献立作りにも配慮している。また、その日の一人ひとりの残食量をチェックし記録している。特に、水分摂取量には注意を払っている。	○	カロリーの過不足や栄養の偏り、水分不足が起こらないよう、職員全員が知識や意識を持ち、利用者一人ひとりが暮らし全体を通して必要な食事や水分がとれるよう支援している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症に関するマニュアルを作成している。外出後や食事前にはうがいや手洗いをを行うように声かけ支援をしている。また、予防と早期発見、早期対応に関して全職員に周知している。	○	事業所内で起こり得る感染症について、マニュアルを作成し、全職員で学習して予防、対策に努めている。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板やふきん等は、毎晩漂白し清潔を心がけている。また、冷蔵庫も点検、清掃し、食材の残りは鮮度や状態を確認し、冷凍したり処分したりしている。	○	新鮮で安全な食材の使用や台所の衛生管理の方法は、当然のことのようであっても、職員一人ひとりの考え方に違いがあったり実行にズレが生じるため、一定のルールを定めそれらに基づいて行っている。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	入居者や訪問者の視点で、入りやすい配慮をしている。また、威圧感や冷たい感じが無い。施設自体のハード面ではなく、ソフト面から配慮をしている。	○	明るい雰囲気のある玄関になるように、花を生けたり玄関先にプランターを置いたりして、季節感を演出している。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部分に無造作に事務用ロッカーや病院用のベッド等を置いていない。天井や壁面を利用し折り紙等の飾りつけを施し、明るい雰囲気作りをしている。（色使いや装飾の点で幼稚にならないように注意を払っている。）	○	ティッシュの箱をいつも手の届く場所に置く等、共有空間であっても入居者がその人なりに日用品を使えるような工夫をしている。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファのコーナー、畳のコーナー、テーブルと椅子の場所等、それぞれ居場所について工夫を施し、入居者は、時々に合わせて思い思いの場所で居心地よく過ごされている。また、喫煙希望者がいる場合、喫煙場所についても確保している。	○	少人数であっても集団での生活は気持ちが落ち着かず、特に、認知症の人はそのことが不安やストレスの原因となることがあるため、職員は常に利用者の居場所作りに注意を払っている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>83</p> <p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>本人がそれまで住んでいた場所でいつも眺めていたり、触っていたり、道具として使っていた物、着ていた洋服等、本人にとってかけがえのない物を居室に持ち込めるような支援をしている。入居時だけでなく、本人や家族と職員との関係を深めながら継続的に行っている。</p>	○	<p>写真や使い慣れた日用品が居室に持ち込まれ、利用者の居心地のよさに配慮している。</p>
<p>84</p> <p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のとどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>空気の入替えの必要性を職員が意識しており、1日の流れの中で積極的に行っている。また、一人ひとりにとっての適切な温度や湿度について話し合っている。</p>	○	<p>事業所内の気になるにおいや空気のとどみが見過ごされず、また、利用者にとって快適な温度、湿度調整がなされるよう注意している。</p>
<p>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</p>			
<p>85</p> <p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>入居者の現在の状態に応じて環境の改善に取り組んでいる。また、トイレ、風呂場、入居者の状況を考えて要所にはきめ細かく手すりが配置されている。本人の活動性を維持するために、車椅子やキャスター付き椅子等を個人の状態にあわせて採り入れている。</p>	○	<p>職員の目が届きにくい居室内に洗面台が設けられているため、入居者が鏡に怯えたり、水栓の扱いで混乱しないか等、注意を払っている。</p>
<p>86</p> <p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>目印等は、入居者の状態により大きく目立つものが必要だったり、必要なかたりと様々である。本人の状態を把握し、対応や工夫を施している。また、夜中でも本人が迷わずトイレに行けるよう、トイレの前の電気だけ一晩中つけている。</p>	○	<p>入居者に強い刺激を与えないように、職員は静かな口調で話す、走らない等を心がけている。また、日向ぼっこや窓辺の強い陽射し等が、本人にとってまぶし過ぎないように配慮している。</p>
<p>87</p> <p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>玄関先や庭等に花壇を設け、手入れや水やりが容易に出来る様に工夫している。また、洗濯物干し等も容易に出来る様にしている。</p>	○	<p>身体機能の低下に伴い、日常的な外出が困難になった利用者にも、ちょっとした戸外スペースを活用して外気浴を楽しむ等の心身のリフレッシュを支援している。</p>

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
 (この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)